



2026年3月16日

各 位

会社名 株式会社システムインテグレータ
代表者名 代表取締役社長 引屋敷 智
(コード番号：3826 東証スタンダード)
問合せ先 経営サポート本部 本部長 石川 伸幸
(TEL. 048-600-3880)

AIを活用したデータアクセス基盤「GRANDIT AI Connect」 の提供開始に関するお知らせ

当社は、AIエージェント連携の標準規格であるMCP（Model Context Protocol）に準拠した、国産Web-ERP「GRANDIT」向けデータアクセス基盤「GRANDIT AI Connect」を開発し、2026年4月よりサブスクリプション形式で提供を開始することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 新機能開発の背景

生成AIの進化により企業でのAIの業務活用が急速に進む一方で、企業活動のデータが集約される基幹システム（ERP）とAIを実運用レベルで連携させるには大きな課題がありました。具体的には、ERPの複雑なデータ構造による業務文脈の誤解釈（ハルシネーションを含む）や、部門・役職などに応じた厳格なアクセス権限・セキュリティ管理への対応です。

当社は、長年の主力製品であるデータベース設計支援ツール「SI Object Browser ER」で培った高度なデータベース解析技術と、2004年からGRANDITプライムパートナーとして蓄積してきた業務・データ構造への知見を融合させることでこれらの課題を解決し、AIとERPを安全につなぐ実用的なデータアクセス基盤を開発いたしました。

2. 「GRANDIT AI Connect」の特徴

本製品は、AIクライアント（例：Claude Desktopなど）を通じて、企業の基幹システム「GRANDIT」のデータへ日本語などの自然言語でアクセスできる環境を提供します。

① MCP準拠による拡張性の確保

AIエージェント連携の世界的な標準規格であるMCPに準拠しています。これにより、多様なMCP対応AIクライアントからGRANDITのデータへアクセスするための接続基盤として利用可能です。

② 誤抽出・誤解釈リスクの低減

当社の「SI Object Browser ER」で管理されるデータモデル（ER定義）を活用し、

自然言語による曖昧な指示をERPのデータ構造に適合する抽出処理へ変換することで、誤抽出や誤解釈（ハルシネーション）のリスクを低減します。

③ Microsoft Entra ID連携による厳格な権限制御

「Microsoft Entra ID」と連携することで、AI経由のデータアクセスであっても利用者本人のアクセス権限をそのまま継承し、権限外のデータへのアクセスを防止するセキュアな仕組みを実現しています。

3. 今後の展開と販売計画

本サービスは、2026年4月より、定額制と従量制を組み合わせたサブスクリプション形式で提供を開始します。まずは、経営層の意思決定（部門別収益や予実差異の確認）や、現場部門のデータ収集・集計業務の効率化を支援する安全なデータ参照基盤として展開します。今後はデータ参照にとどまらず、伝票起票などAIが自律的にシステム更新を行う機能拡張も段階的に検討し、企業のAI活用と基幹システムの融合を進化させてまいります。

4. 業績への影響

本件による当期の業績への影響は軽微であります。中長期的に当社の業績向上に資するものと考えております。今後、公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以上